いいずな書店

テストクリエイター

一太郎2026

ご利用方法



テストクリエイター
ホーム
再作成 開く 保存 元に戻す 印刷 Word 一太郎 複数枚に戻す
メイン
クラス 1
ページ 1
移動
用紙 余白
ページ設定
対象 全クラス 表示クラス
タイトル サイズ 11.5 行間 33.0
指示文 サイズ 10.5 行間 13.7
問題文 サイズ 10.5 行間 15.8
文字サイズ・行間
表示設定 その他
各種設定

第　回　9月24日　古文単語330四訂版

年　1組　番　　氏名　　点数

［A］次の古語の訳語として最も適当なものを選び、番号で答えよ。

1　しのぶ（忍ぶ）
①想像する　②そ知らぬふりをする　③がまんする　④逃げ出す　1［　］

［B］次の文の（訳）の［　　］に入る語句として最も適当なものを選び、番号で答えよ。

2　暮れはつるまで、ながめ暮らしつ。（蜻蛉日記）
（訳）日がすっかり暮れてしまうまで、［　　］で過ごした。
①ふさぎ込ん　②もの思いに沈ん　③話し込ん　④歌を詠ん　2［　］

3　おぼつかなきもの。十二年の山ごもりの法師の女親。（枕草子）
（訳）［　　］もの。十二年間の山籠りをしている僧の母親（の心）。
①気がかりな　②好ましい　③不本意な　④もどかしい　3［　］

4　つれづれに思ひつづくるも、うち返しいとあぢきなし。（源氏物語）
（訳）［　　］思い続けているのだが、考えれば考えるほどまったく情けない。
①とりとめもなく　②暇がないときに　③大変ばかばかしく　④しんみりともの寂しく　4［　］

［C］次の傍線部の口語訳として最も適当なものを選び、番号で答えよ。

5　これに、ただおぼえむ古き言一つづつ書け。（枕草子）
①わかる　②思い出される　③思いつく　④似ている　5［　］

6　少しの地をも、いたづらにおかんことは、益なきことなり。食ふ物・薬種などを植ゑおくべし。（徒然草）
①大切に　②むだに　③余分に　④例外に　6［　］

［D］次の文の（訳）の［　　］に入る語句を答えよ。

7　雲居よりもはるかに見ゆる人ありけり。（平中物語）
（訳）雲よりもはるかに（遠い存在と）［　　］女性がいた。　7［　］

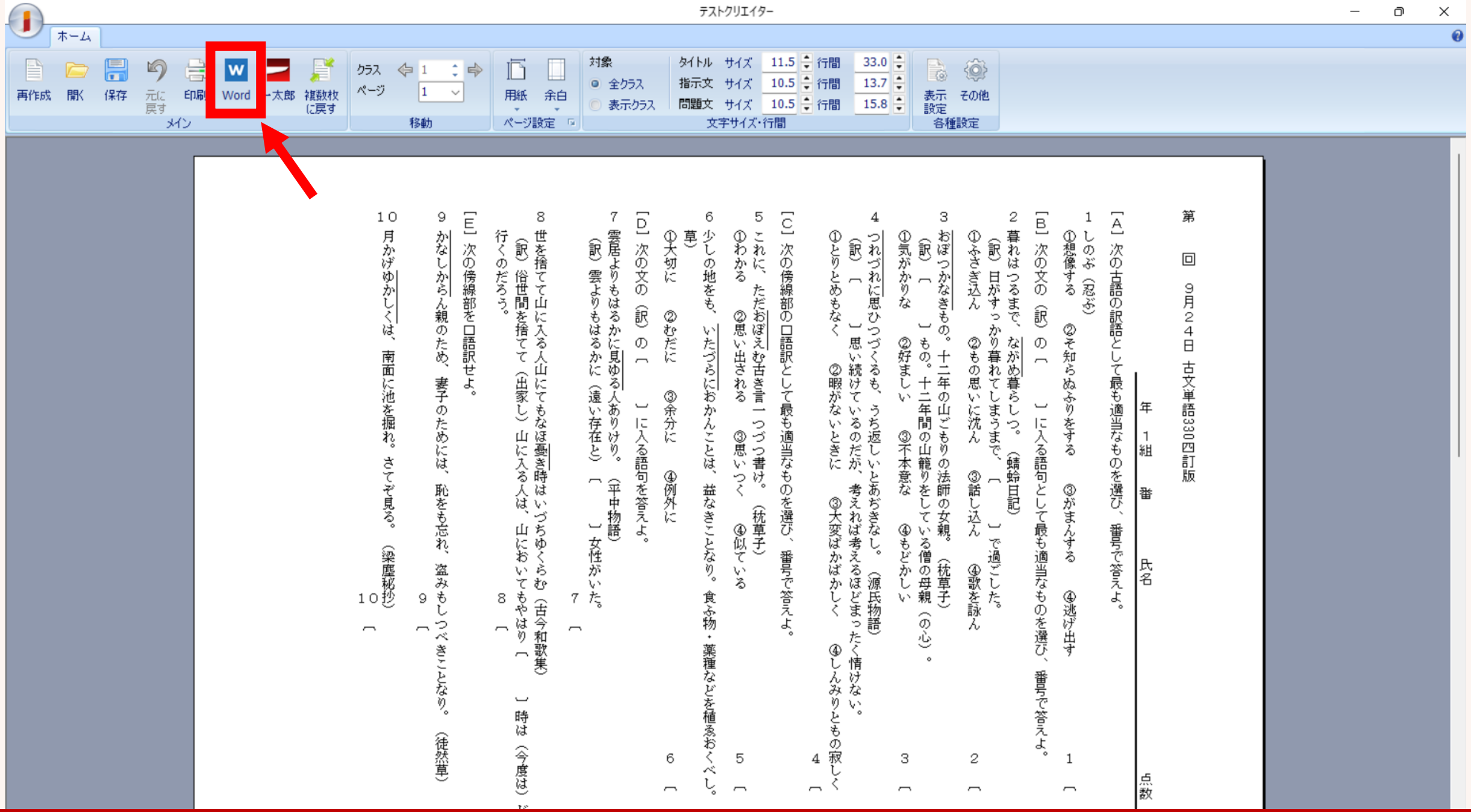
8　世を捨てて山に入る人山にてもなほ憂き時はいづちゆくらむ（古今和歌集）
（訳）俗世間を捨てて（出家し）山に入る人は、山においてもやはり［　　］時は（今度は）行くのだろう。　8［　］

［E］次の傍線部を口語訳せよ。

9　かなしからん親のため、妻子のためには、恥をも忘れ、盗みもしつべきことなり。（徒然草）　9［　］

10　月かげゆかしくは、南面に池を掘れ。さてぞ見る。（梁塵秘抄）　10［　］

テストクリエイターでテストを作成します。



メニューにある「Word」をクリックします。

自動保存 オフ 260924_181134 - 互換モード • 保存済み 検索 プランをアップグレード TS
ファイル ホーム 挿入 デザイン レイアウト 参考資料 差し込み文書 校閲 表示 ヘルプ Acrobat コメント 編集 共有

第　回　9月24日　古文単語330 四訂版

年　1組　番　　氏名　　点数

[A] 次の古語の訳語として最も適当なものを選び、番号で答えよ。

1 しのぶ（忍ぶ）
①想像する　②そ知らぬふりをする　③がまんする　④逃げ出す　1〔　〕

[B] 次の文の（訳）の〔　〕に入る語句として最も適当なものを選び、番号で答えよ。

2 暮れはつるまで、ながめ暮らしつ。（蜻蛉日記）
（訳）日がすっかり暮れてしまうまで、〔　〕で過ごした。
①ふさぎ込ん　②もの思いに沈ん　③話し込ん　④歌を詠ん　2〔　〕

3 おぼつかなきもの。十二年の山ごもりの法師の女親。（枕草子）
（訳）〔　〕もの。十二年間の山籠りをしている僧の母親（の心）。
①気がかりな　②好ましい　③不本意な　④もどかしい　3〔　〕

4 つれづれに思ひつづくるも、うち返しいとあぢきなし。（源氏物語）
（訳）〔　〕思い続けているのだが、考えれば考えるほどまったく情けない。
①とりとめもなく　②暇がないときに　③大変ばかばかしく　④しんみりとものの寂しく　4〔　〕

[C] 次の傍線部の口語訳として最も適当なものを選び、番号で答えよ。

5 これに、ただおぼえむ古き言一つづつ書け。（枕草子）
①わかる　②思い出される　③思いつく　④似ている　5〔　〕

6 少しの地をも、いたづらにおかんことは、益なきことなり。食ふ物・薬種などを植ゑおくべし。（徒草）
①大切に　②むだに　③余分に　④例外に　6〔　〕

[D] 次の文の（訳）の〔　〕に入る語句を答えよ。

7 雲居よりもはるかに見ゆる人ありけり。（平中物語）
（訳）雲よりもはるかに（遠い存在と）〔　〕女性がいた。　7〔　〕

8 世を捨てて山に入る人山にてもなほ憂き時はいづちゆくらむ（古今和歌集）
（訳）俗世間を捨てて（出家し）山に入る人は、山においてもやはり〔　〕時は（今度は）どこ
行くのだろう。　8〔　〕

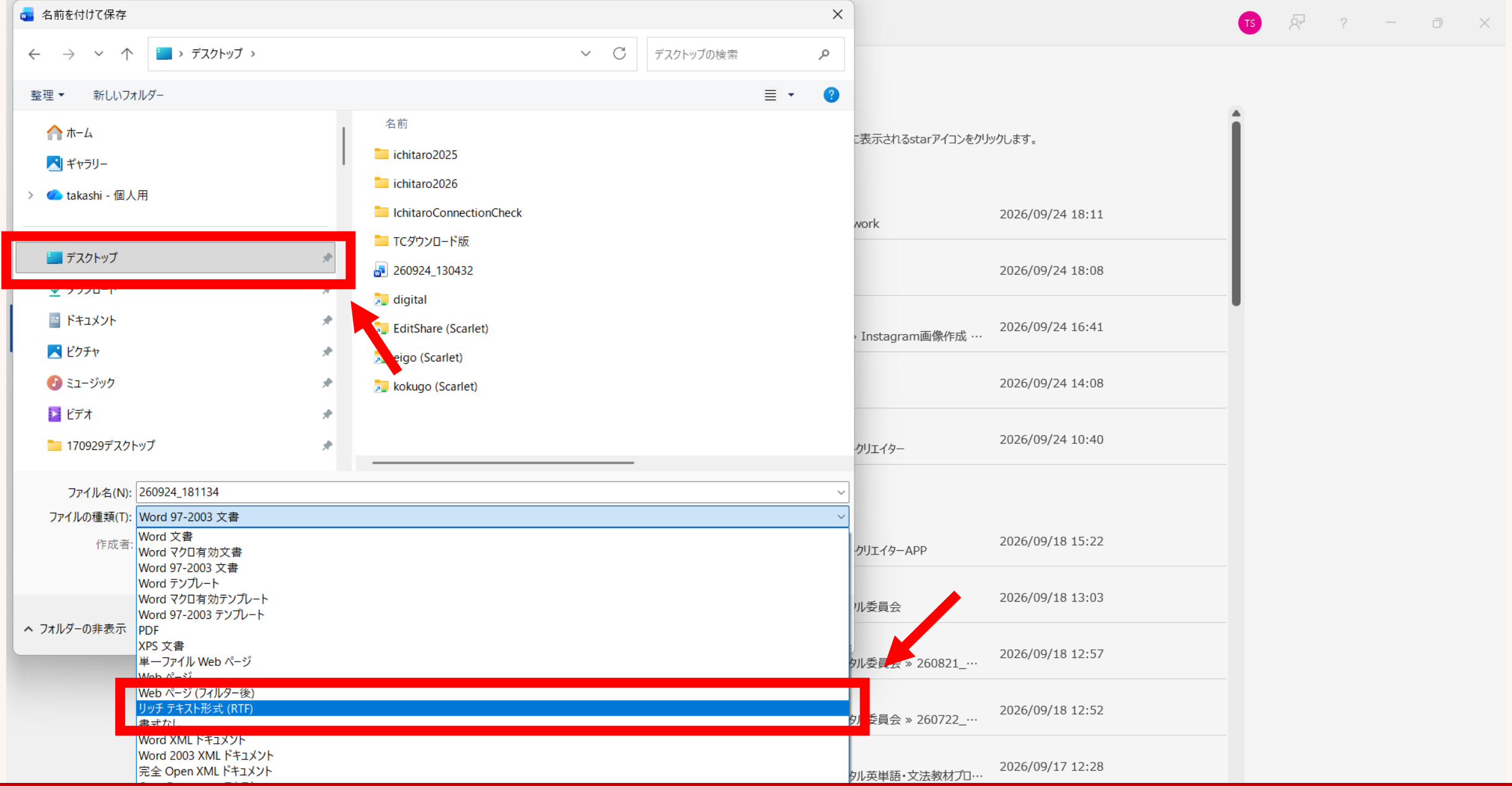
[E] 次の傍線部を口語訳せよ。

9 かなしからん親のため、妻子のためには、恥をも忘れ、盗みもしつべきことなり。（徒然草）　9〔　〕

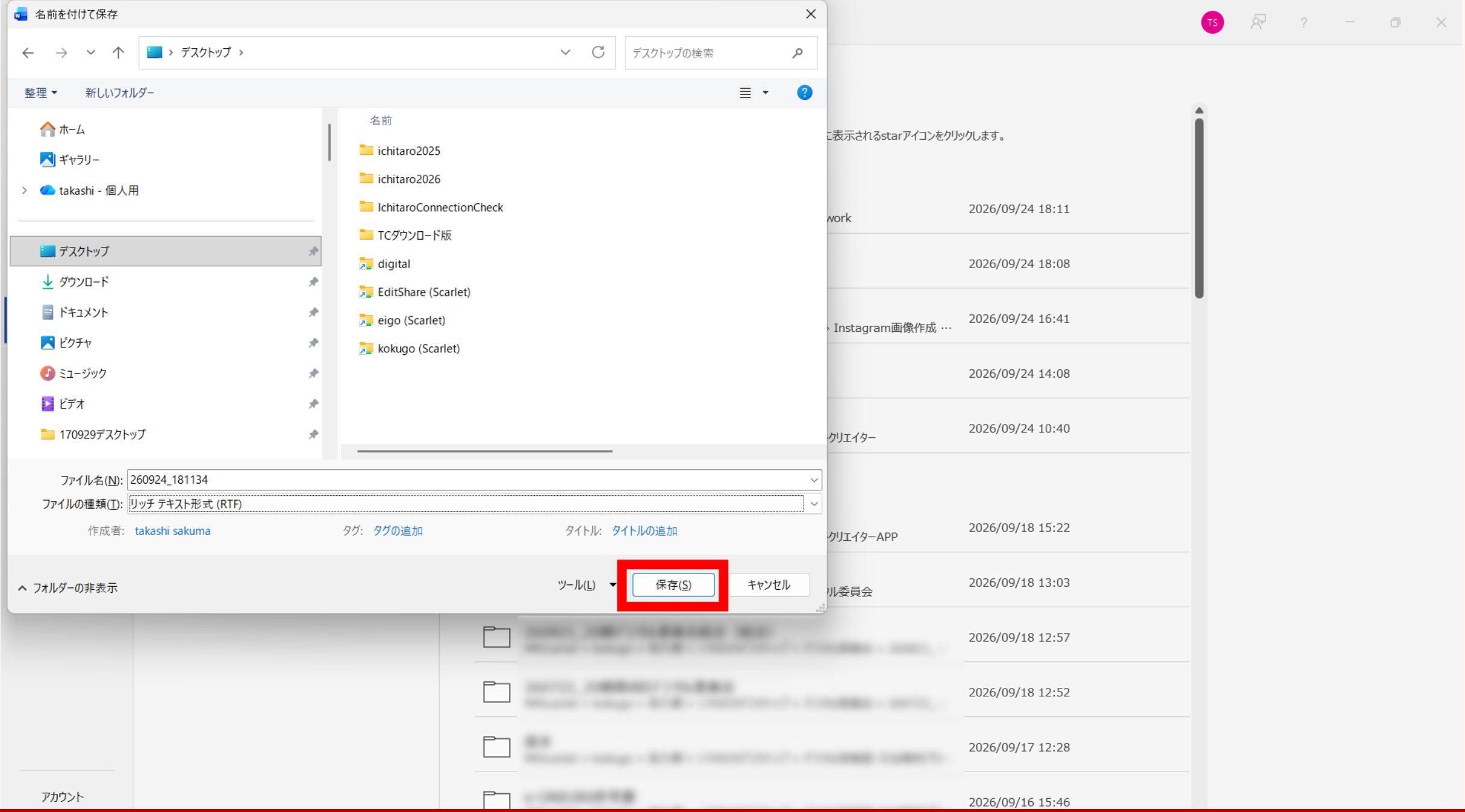
10 月かげゆかしくは、南面に池を掘れ。さてぞ見る。（梁塵秘抄）　10〔　〕

「Word」で出力されたら、「ファイル」をクリックします。

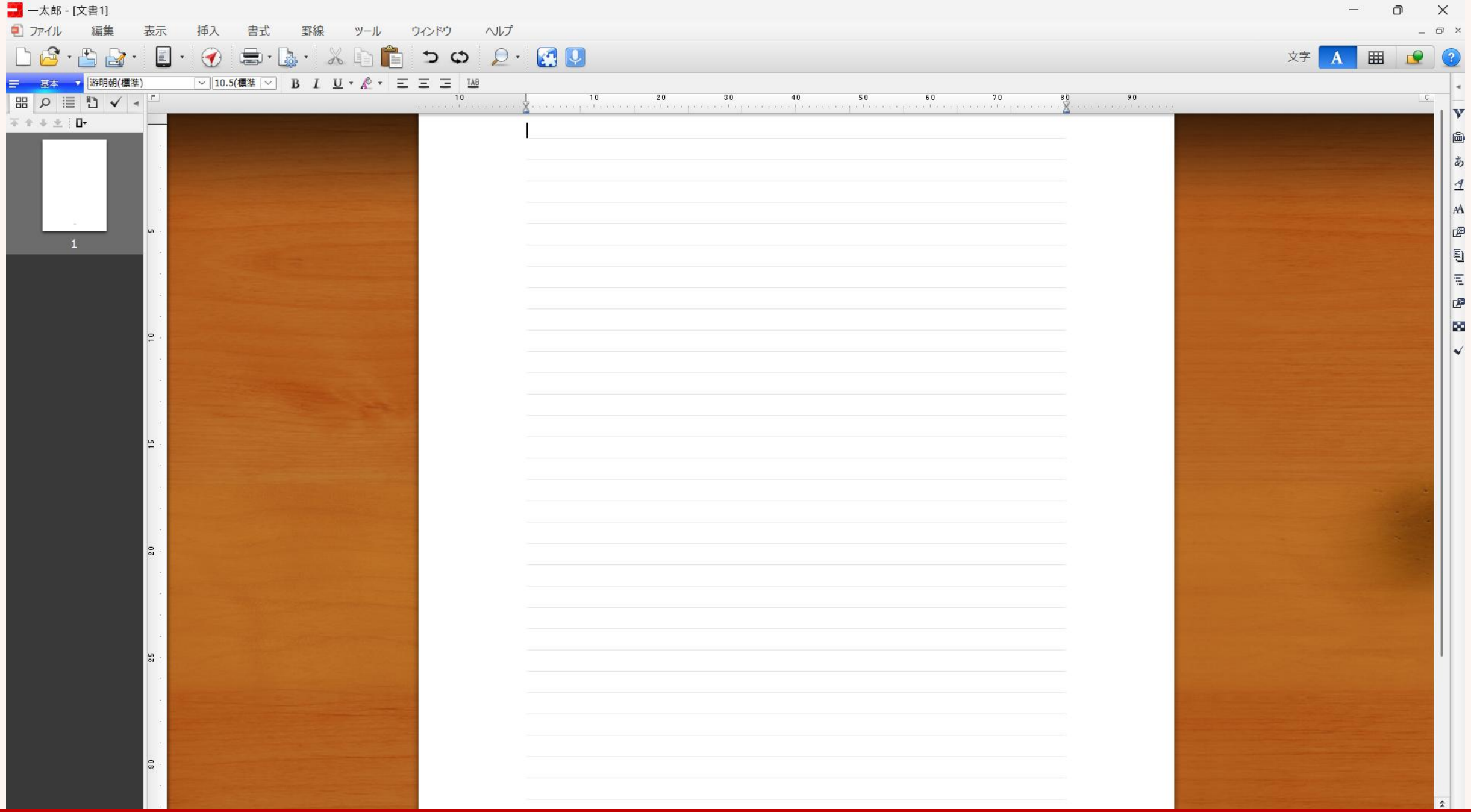

260924_181134 - 互換モード
名前を付けて保存
ホーム
新規
開く
情報
上書き保存
名前を付けて保存
Adobe PDF として保存
印刷
共有
Adobe PDF リンクとして共有
エクスポート
閉じる
アカウント
最近使ったアイテム
個人用
OneDrive - 個人用
izsakumata@gmail.com
共有オプション
共有
リンクのコピー
その他の場所
この PC
場所の追加
参照
お気に入り
後で簡単に検索するお気に入りのフォルダー。フォルダーにカーソルを合わせたときに表示されるstarアイコンをクリックします。
今日
2026/09/24 18:11
2026/09/24 18:08
2026/09/24 16:41
2026/09/24 14:08
2026/09/24 10:40
先週
2026/09/18 15:22
2026/09/18 13:03
2026/09/18 12:57
2026/09/18 12:52
2026/09/17 12:28
2026/09/16 15:46
「名前を付けて保存」をクリックします。



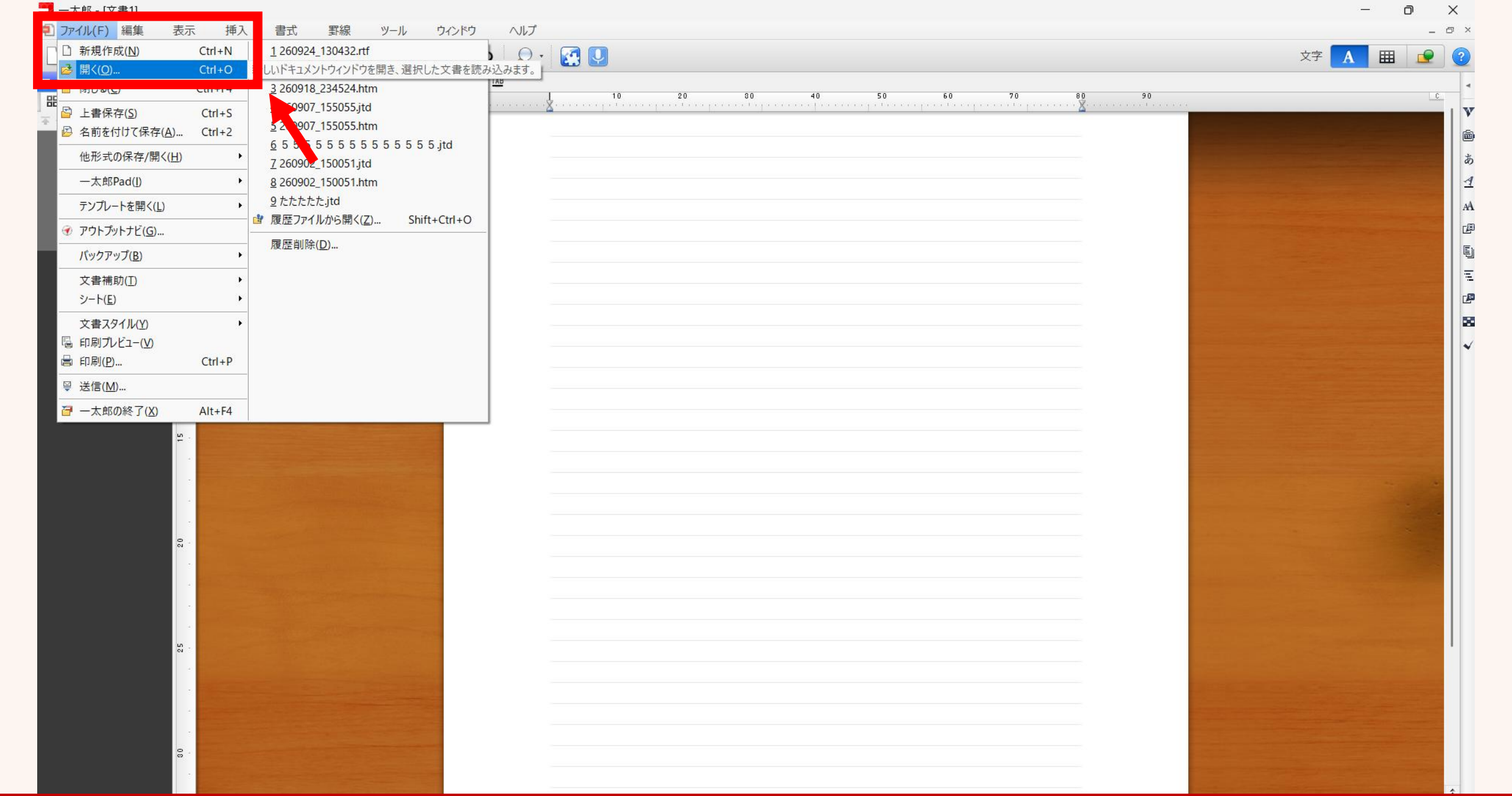
保存先を「デスクトップ」にし、ファイルの種類として「リッチテキスト形式（RTF）」を選びます。


名前を付けて保存
デスクトップ
デスクトップの検索
整理
新しいフォルダー
ホーム
ギャラリー
takashi - 個人用
デスクトップ
ダウンロード
ドキュメント
ピクチャ
ミュージック
ビデオ
170929デスクトップ
名前
ichitaro2025
ichitaro2026
IchitaroConnectionCheck
TCダウンロード版
digital
EditShare (Scarlet)
eigo (Scarlet)
kokugo (Scarlet)
ファイル名(N): 260924_181134
ファイルの種類(T): リッチ テキスト形式 (RTF)
作成者: takashi sakuma
タグ: タグの追加
タイトル: タイトルの追加
フォルダーの非表示
ツール(L)
保存(S)
キャンセル
に表示されるstarアイコンをクリックします。
2026/09/24 18:11
2026/09/24 18:08
2026/09/24 16:41
2026/09/24 14:08
2026/09/24 10:40
2026/09/18 15:22
2026/09/18 13:03
2026/09/18 12:57
2026/09/18 12:52
2026/09/17 12:28
2026/09/16 15:46
アカウント

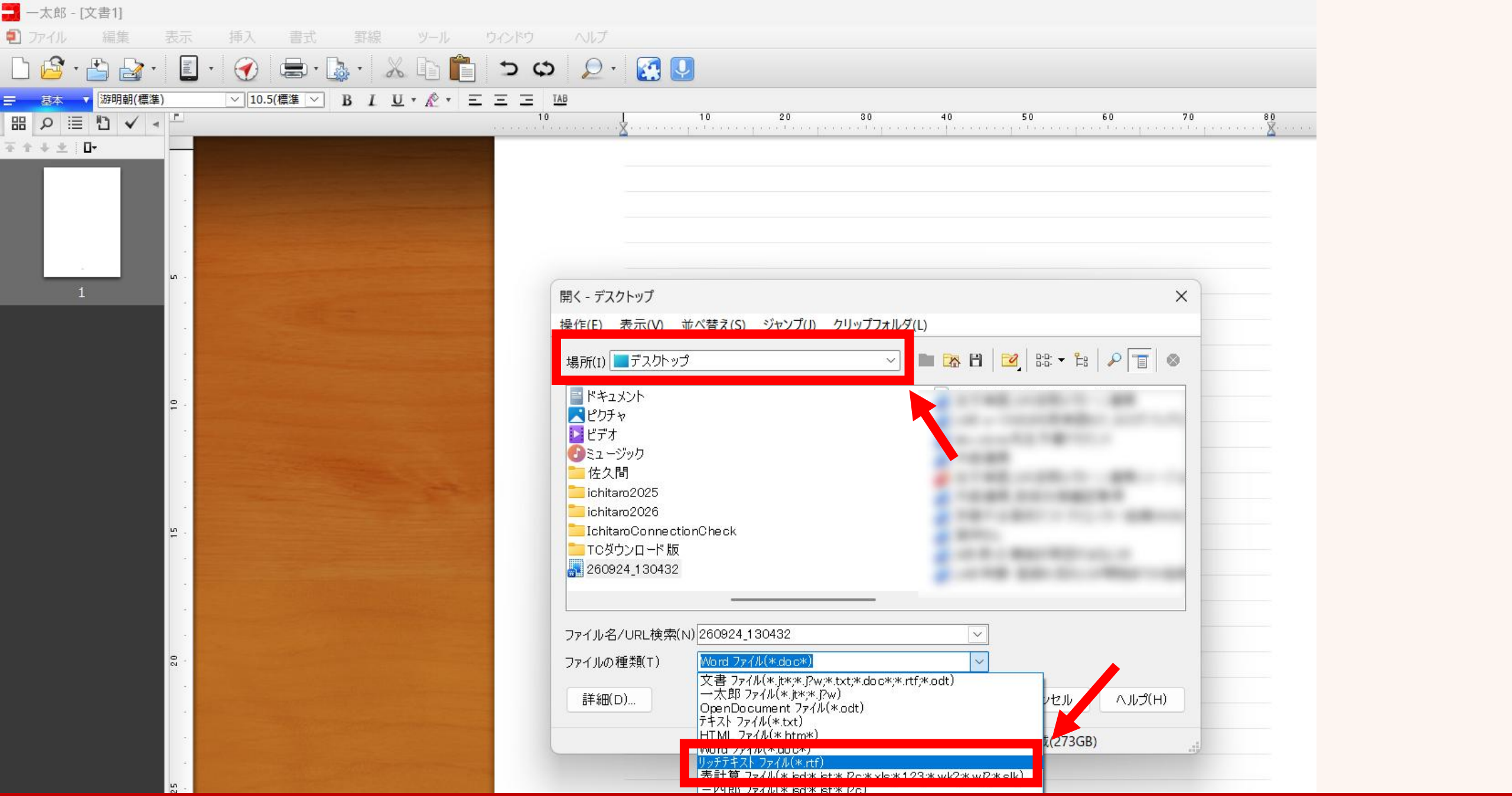
「保存」をクリックします。



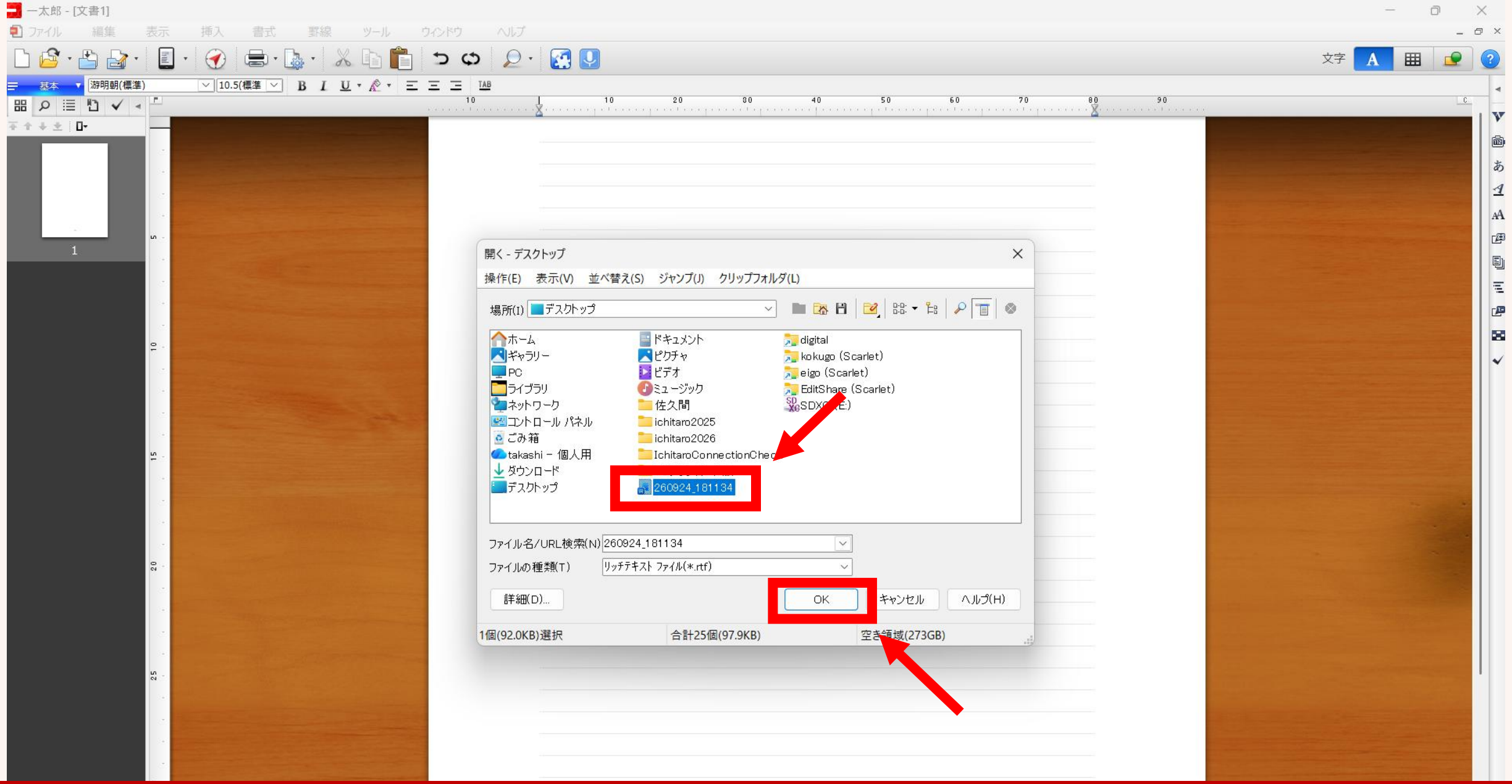
「一太郎2026」を起動します。



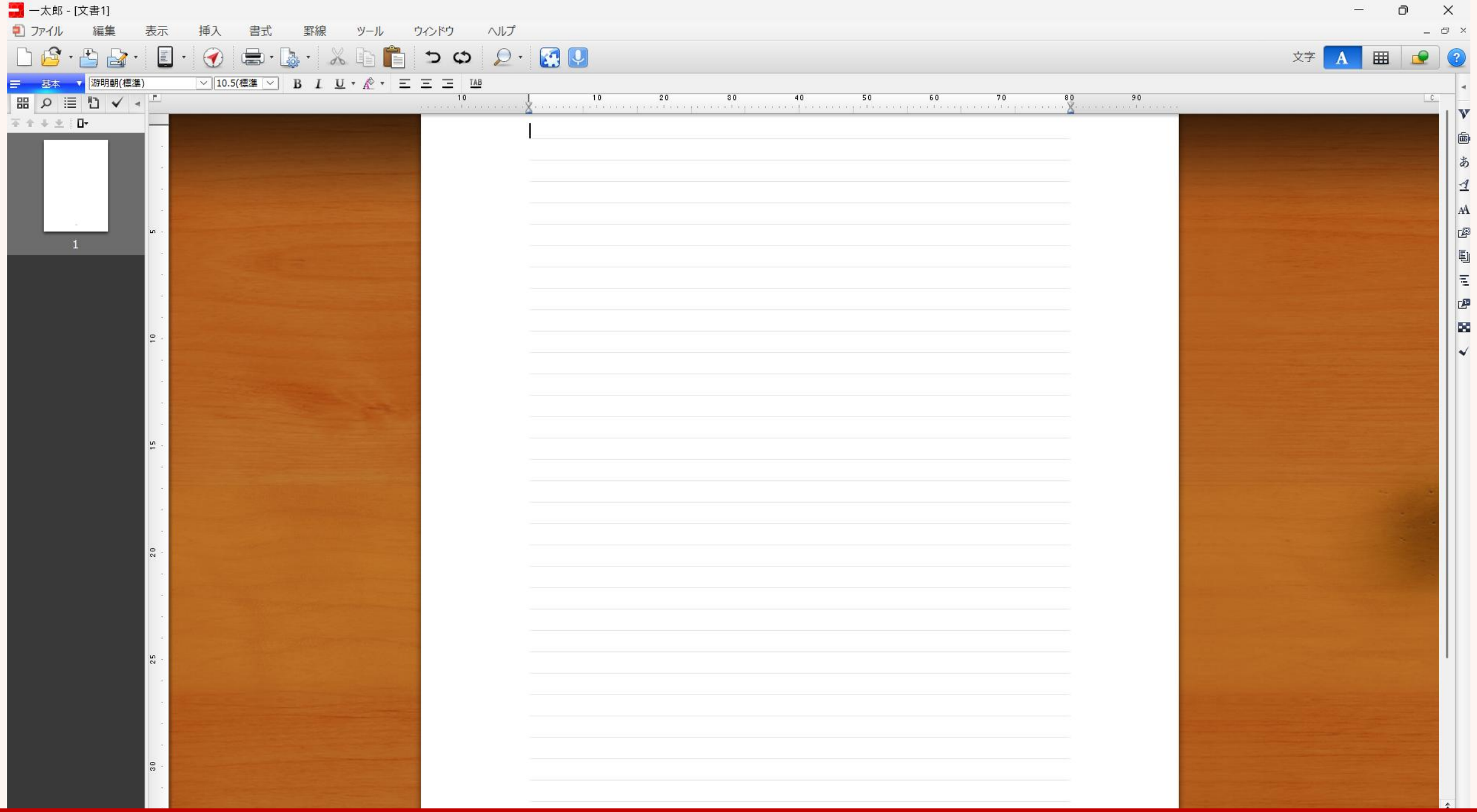
「ファイル」から「開く」をクリックします。



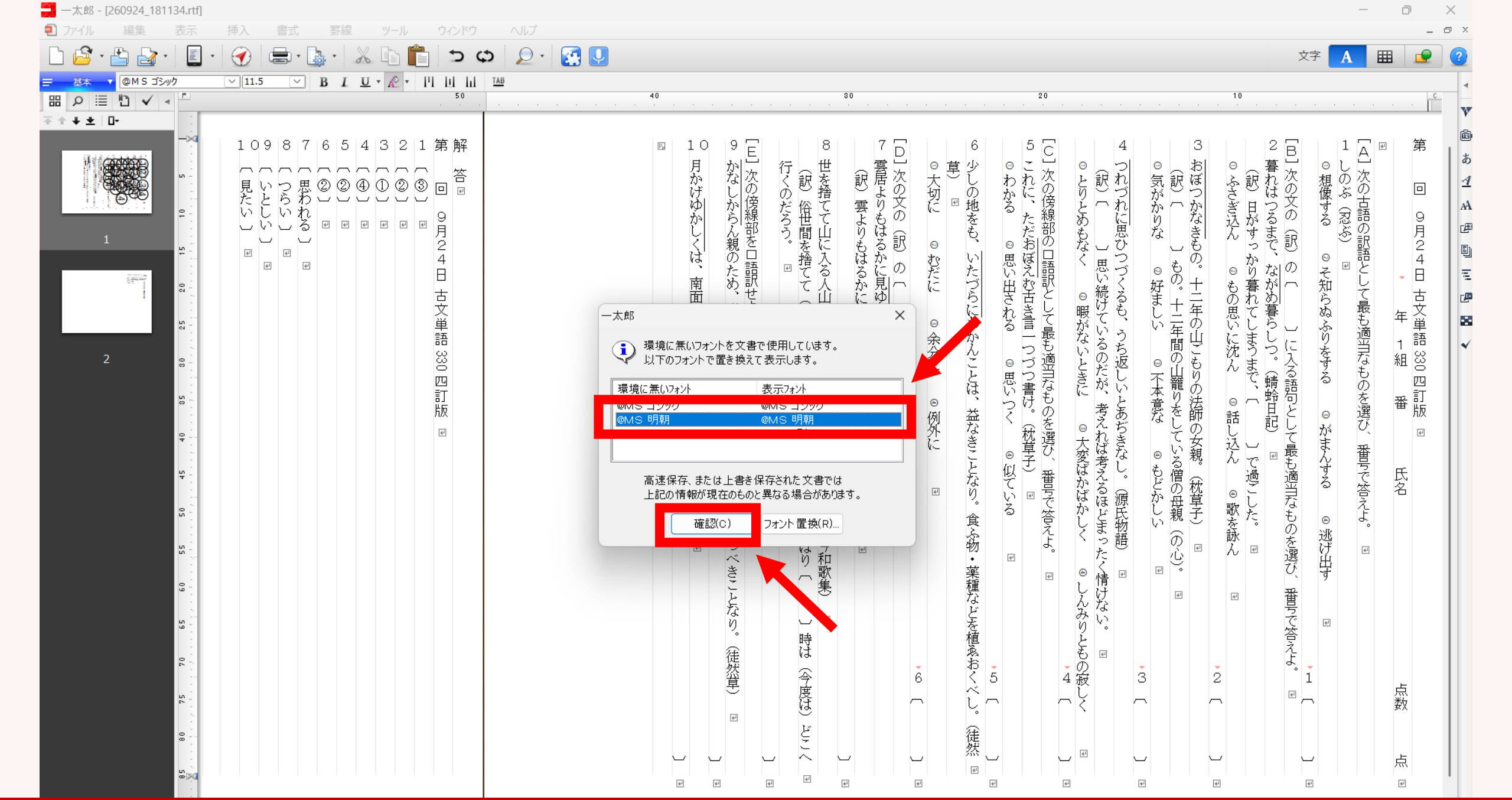
場所を「デスクトップ」にし、ファイルの種類「リッチテキスト」にします。



「デスクトップ」に、先程リッチテキストで保存したファイルを選び、「OK」をクリックします。



出力されるまで少し待ちます（クルクルが回ります）。



出力されて、上の画面が出たら「@MS明朝」を選び、「確認」をクリックします。

第　回　9月24日　古文単語330　四訂

年　1組

［A］次の古語の訳語として最も適当なものを

1　しのぶ（忍ぶ）

㋐想像する　㋑そ知らぬふりをする

［B］次の文の（訳）の［　］に入る語

2　暮れはつるまで、ながめ暮らしつ。（蜻蛉

（訳）日がすっかり暮れてしまうまで、

㋐ふさぎ込ん　㋑もの思いに沈ん

3　おぼつかなきもの。十二年の山ごもりの

（訳）［　］もの。十二年間の山籠

㋐気がかりな　㋑好ましい　㋒不本

4　つれづれに思ひつづくるも、うち返しい

（訳）［　］思い続けているのだが、

㋐とりとめもなく　㋑暇がないときに

［C］次の傍線部の口語訳として最も適当な

5　これに、ただおぼえむ古き言一つづつ書

㋐わかる　㋑思い出される　㋒思い

6　少しの地をも、いたづらにおかんことは

草）

㋐大切に　㋑むだに　㋒余分に

［D］次の文の（訳）の［　］に入る語

7　雲居よりもはるかに見ゆる人ありけり。

（訳）雲よりもはるかに（遠い存在と）

行くのだろう。

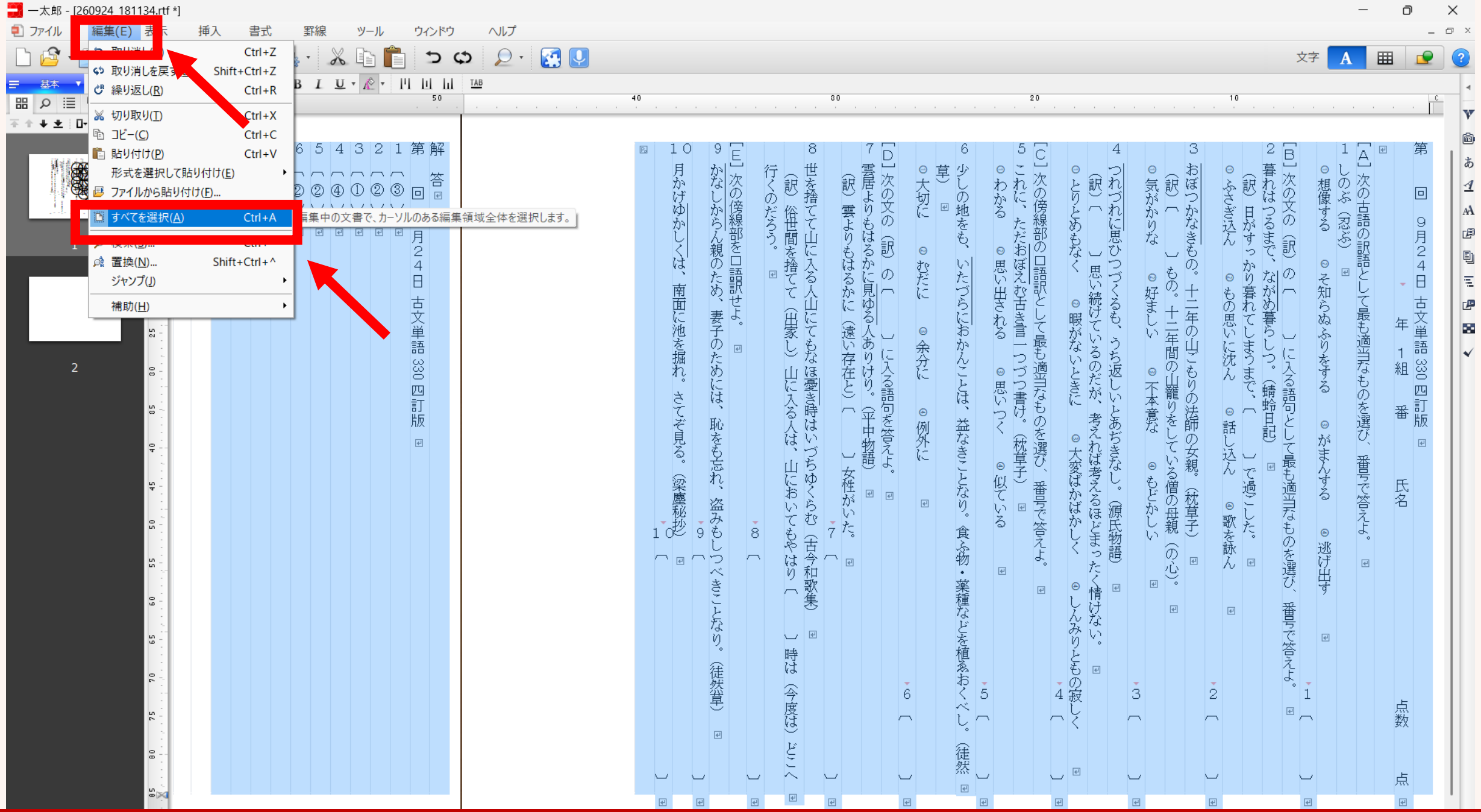
［E］次の傍線部を口語訳せよ。

8　世を捨てて山に入る人山にてもなほ憂き

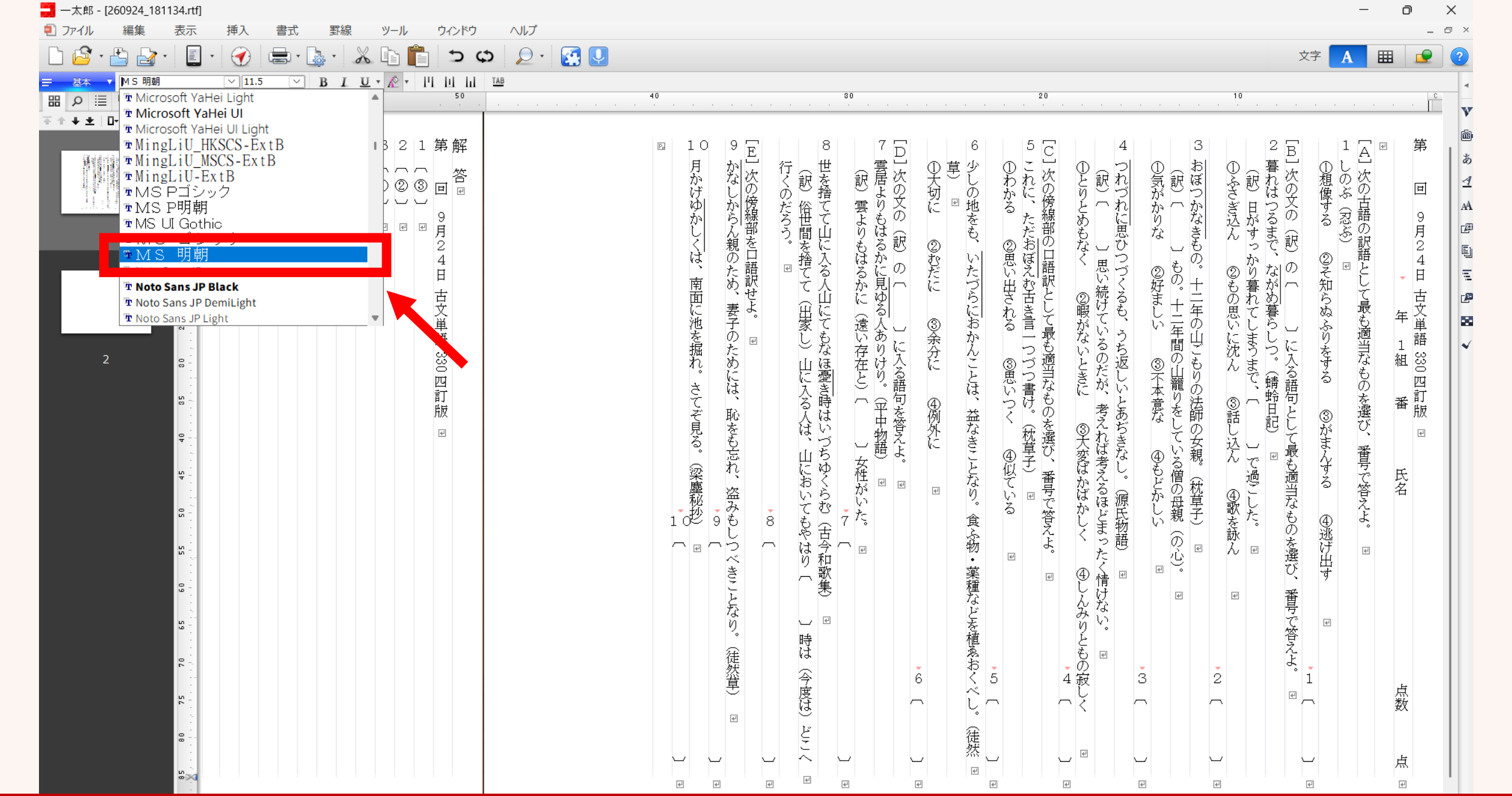
（訳）俗世間を捨てて（出家し）山に入

9　かなしからん親のため、妻子のためには

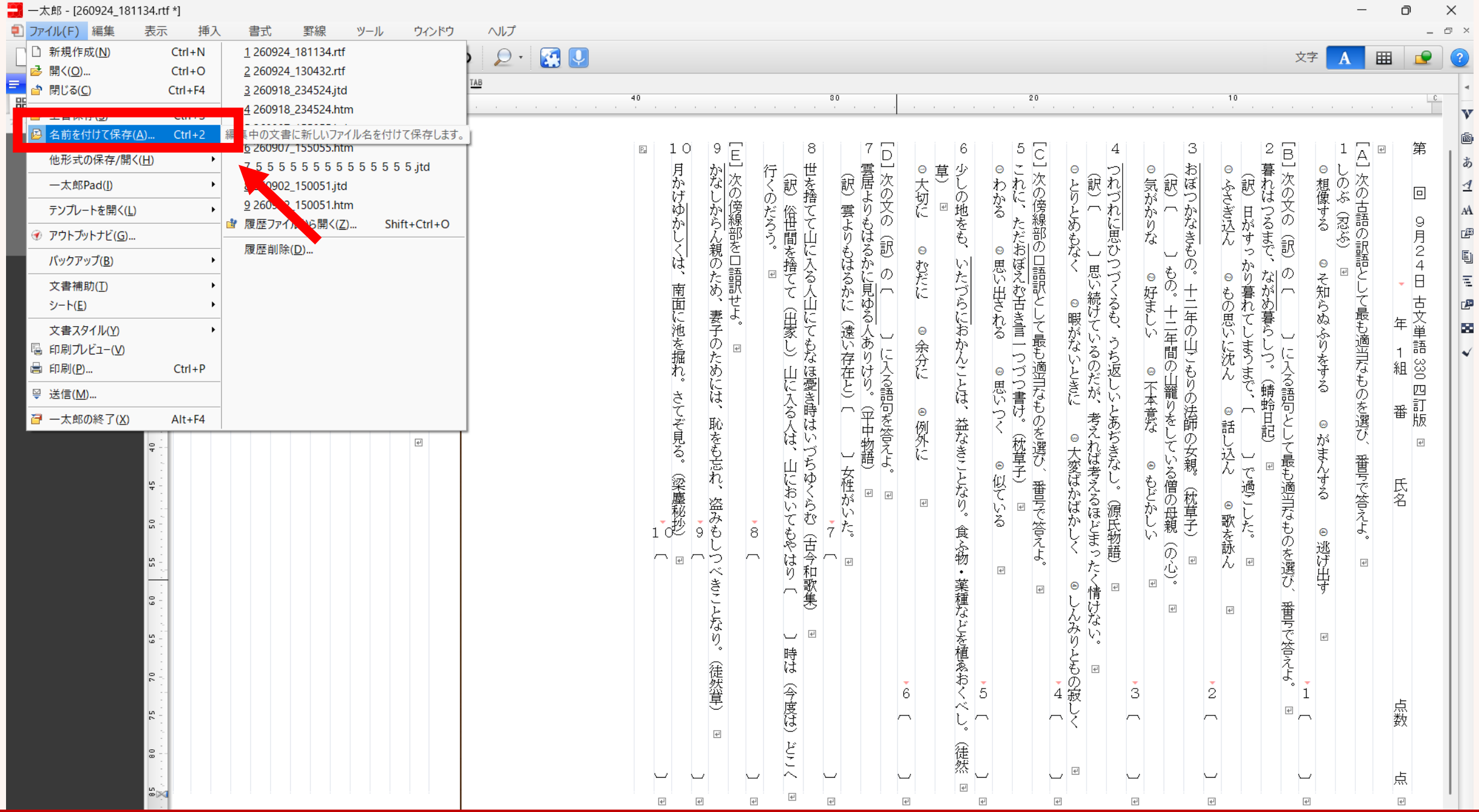
出力されましたが、丸付き数字（①②③……など）が可読しにくいので、ここも変換します。



「編集」から「すべてを選択」をクリックします。



「書体」で「MS明朝」をクリックします。丸付き数字が可読しやすくなりました。



最後に「ファイル」から「名前を付けて保存」で完了です。